

Letter No.57

雪崩分科会レター



平成 26 年 3 月 4 日 撮影



平成 28 年 3 月 5 日 撮影

小雪時に発生する雪崩（小雪(こゆき)の多雪崩(おおなだれ)）

年最大積雪深が平均 300 cm 程の新潟県南魚沼市の中山間地においては、平年であれば山裾に堆雪した大量の積雪により斜面のグライドが抑制され、雪崩発生に至らない（写真左）。

平成 27～28 年冬期は、年最大積雪深 144 cm と小雪年であった。小雪だと雪崩の危険性は低下すると考えられがちだが、実際は山裾の雪が少ないことや斜面の雪が独立化しやすいため、小規模ではあるが雪崩発生に至る事例が多々見受けられた（写真右）。

（写真・文：町田 敬（町田建設株式会社））

2016 年 9 月 12 日発行

（公社）日本雪氷学会 雪崩分科会

目 次

■ 2015 年度事業報告	1
■ 2016 年度事業計画（案）	1
■ 2015 年度会計報告	2
■ 2016 年度予算（案）	2
■ 雪崩分科会 監査報告書	3
■ 雪氷研究大会（2016・名古屋）スペシャルセッションのご案内.....	4
■ 雪氷研究大会（2016・名古屋）日本雪氷学会雪崩分科会・日本雪工学会 雪崩防災委員会 合同分科会，雪崩分科会総会のご案内.....	5
■ 雪崩分科会会費徴収の廃止に関わる内規の改定提案.....	6
■ 雪崩分科会役員一覧表	7

分科会費納入のお願い

今年度の雪崩分科会費を郵便振替で納入願います。金額は年額 1,000 円です。お手数ですが、郵便局の窓口において用紙を受け取り、必要事項をご記入の上、払い込み願います（氏名と何年度分の会費かをお書きください）。前年度までの会費に未納のある方は、あわせて納入願います。口座番号等は以下のとおりです。

口座番号：00670-0-26949 口座名称：日本雪氷学会雪崩分科会

ご不明な点がございましたら会計担当幹事 平島 寛行までお問い合わせください。

連絡先：〒940-0821 新潟県長岡市栖吉町前山 187-16

防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター

Tel: 0258-35-8932 Fax: 0258-35-0020 e-mail: hirasima@bosai.go.jp

■ 2015 年度事業報告

1. 総会・研究会の開催

雪崩分科会総会の開催

2015 年 9 月 14 日 信州大学 C 棟 1 階 第 13 号講義室 参加者 40 名

雪崩分科会研究会の開催

「100 years of snow avalanche disasters at Sakhalin and Kuril Islands during Japanese and Russian eras」

2015 年 9 月 14 日 信州大学 C 棟 1 階 第 13 号講義室 参加者 40 名

雪工学会雪崩防災委員会と合同

雪崩分科会セッション「山岳雪崩」

2015 年 9 月 14 日 信州大学 C 棟 1 階 第 13 号講義室 参加者 88 名

雪工学会雪崩防災委員会と合同

2. 第 26 回雪崩対策の基礎技術研修会の開催（協力）

2016 年 1 月 14～15 日 新潟県 湯沢町 参加者：34 名

3. ニュースレター「letter」No. 55, 56 の刊行

4. 雪崩分科会ホームページの更新と管理

5. 雪崩分科会メーリングリストの運営と管理

6. 分科会会員への研究助成（榊原大貴、国際標準コンパニオンレスキュー講習会参加費）

■ 2016 年度事業計画(案)

1. 総会の開催

2. 研究会の開催

3. 日本雪氷学会主催「第 27 回雪崩対策の基礎技術研修会」の開催協力（札幌開催）

4. ニュースレター「letter」の刊行（2 回）

5. ホームページの充実と活用

6. 雪崩分科会メーリングリストの活用

7. 分科会会員に対する研究協力

■ 2015 年度会計報告

2015年4月1日から2016年3月31日まで（単位：円）				
	科 目	金 額	備 考	
経常収益の部	事業収益			
	研究大会事業収益	51,000	分科会会員費	
	研修会事業収益	0	参加費	
	出版事業収益	0	投稿料、冊子代	
	受取寄付金	0		
	雑収益	14	預金利子	
	経常収益合計	51,014		
経常費用の部	事業費			
	臨時雇賃金	0	アルバイト料	
	通信運搬費	1,726	切手、送料、電話代	
	消耗品費	50,000	研究助成費、消耗品	
	印刷製本費		分科会ニュースレター発行費	
	会議費	0	飲食代、お菓子代	
	会場費	0	会場使用料	
	保険料	0	保険料	
	旅費・諸謝金	12,680	講師旅費謝礼金	
	サイト運営費	0	HP運営費	
	手数料	0	振込手数料	
	管理費			
	旅費交通費	0	旅費交通費、宿泊費	
	通信運搬費		切手、送料、電話代	
	消耗品費	0	事務用品、筆記用具等	
	会議費	0	飲食代、お菓子代	
	会場費	0	会場使用料	
	手数料	1,024	残高証明発行料	
		経常費用合計	65,430	
		当期経常増減額	-14,416	

■ 2016 年度予算(案)

2016年4月1日から2017年3月31日まで（単位：円）				
	科 目	金 額	備 考	
経常収益の部	事業収益			
	研究大会事業収益	45,000	分科会会員費	
	研修会事業収益	0	参加費	
	出版事業収益	0	投稿料、冊子代	
	受取寄付金	0		
	雑収益	0		
	経常収益合計	45,000		
経常費用の部	事業費			
	臨時雇賃金	0	アルバイト料	
	旅費交通費	20,000	旅費交通費、宿泊費	
	通信運搬費	2,000	切手、送料、電話代	
	消耗品費	60,000	研究助成費、消耗品	
	印刷製本費	5,000	分科会ニュースレター発行費	
	会議費	0	飲食代、お菓子代	
	会場費	0	会場使用料	
	保険料	0	保険料	
	諸謝金	22,222	講師謝礼金	
	サイト運営費	0	HP運営費	
	手数料	0	振込手数料	
	管理費			
	旅費交通費	0	旅費交通費、宿泊費	
	通信運搬費	2,000	切手、送料、電話代	
	消耗品費	0	事務用品、筆記用具等	
	会議費	0	飲食代、お菓子代	
	会場費	0	会場使用料	
	手数料	3,000	残高証明発行料	
		経常費用合計	114,222	
		当期経常増減額	-69,222	

雪崩分科会 監査報告書

公益社団法人 日本雪氷学会
雪崩分科会会長 上石 勲 殿

2016年4月6日

公益社団法人 日本雪氷学会
雪崩分科会 幹事（前監事） 河島克久



2015年4月1日から2016年3月31日までの2015年度における雪崩分科会会計及び業務の監査を次のとおり報告する。

1. 監査の方法

(1) 会計監査

出納簿、普通口座残高証明、振込口座通知の写し、領収書の写し、振込口座の残高証明、棚卸資産等の会計に係る資料をもとに、会計業務の実態について確認した。

(2) 業務監査

雪氷研究大会（2015・松本）で開催された雪崩科会総会（2015年9月14日開催）に出席するとともに、分科会役員等から事業内容や実施状況の聞き取り等を行うことによって、業務執行の妥当性を調べた。

2. 監査意見

(1) 会計監査

正確かつ妥当であることを認める。また、事業内容に対する予算執行内容、予算規模、収支バランスなどの点も概ね良好であると判断する。

(2) 業務監査

雪氷研究大会（2015・松本）時の企画セッション「山岳雪崩」や雪崩分科会例会（話題提供）のほか、雪氷学会主催の「雪崩対策の基礎技術研修会」の開催協力、2度のニュースレターの発行、ホームページの更新、分科会会員に対する研究協力（1件）等、様々な事業が活発になされている。また、これらの事業は、雪崩分科会の趣旨に沿って、適切に遂行されているものと判断する。

なお、本監査は、雪崩分科会監事の荒川逸人氏が行う予定であったが、同氏が第57次日本南極地域観測隊として昭和基地に滞在中であるため、前監事の河島が代理で行ったことを付記する。

以上

■ 雪氷研究大会（2016・名古屋）スペシャルセッションのご案内

雪氷研究大会（2016・名古屋）では、10月1日（土）9:00～10:30 B会場（豊田講堂／3階 第1会議室）に予定されている一般の雪崩セッションのほかに、日本雪氷学会雪崩分科会と日本雪工学会雪崩防災委員会が行うスペシャルセッションが企画されています。ぜひご参加下さい。

SP18：雪崩対策技術における現状と課題（雪崩防災委員会）

座長：松下拓樹（土木研究所）

9月30日（金）15:00～16:30 A会場（豊田講堂／1階 シンポジオンホール）

A4-1 雪崩対策における小段の有効活用とアンカーの安定計算等について

（15分）○阿部孝幸（正会員）

A4-2 異なる高さの雪崩予防柵に作用する雪圧について

（15分）○高橋渉（寒地土木研究所），原田裕介（寒地土木研究所），松澤勝（寒地土木研究所）

A4-3 遠赤外線融雪装置による落雪・雪崩予防

（15分）○町田敬（町田建設），関根伸幸（新潟国道事務所），大崎 智（長岡国道事務所），町田誠（町田建設），新井智社（ユニ・ロット），宮谷 繁（ユニ・ロット），北谷公昭（ユニ・ロット）

A4-4 知床横断道路における斜面積雪の安定性判断について

（15分）○石井孝典（ドーコン），今西伸行（ドーコン），吉田展之（北海道開発局），安中新太郎（寒地土木研究所）

（全体討論）

SP17：低気圧接近通過時の降雪結晶と雪崩との関連について（雪崩分科会・雪崩防災委員会）

座長：伊藤陽一（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）

10月1日（土）10:30～12:00 B会場（豊田講堂／3階 第1会議室）

B5-7 低気圧による降雪に起因する弱層の構造－雪氷用 μ -CTを用いた弱層の3次元微細構造分析－

（15分）○中村一樹（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター），安達聖（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター），阿部修（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター），小杉健二（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）

B5-8 新雪の密度と硬度の時間変化に関する現地観測

（15分）○松下拓樹（土木研究所雪崩・地すべり研究センター），石川 茂（土木研究所雪崩・地すべり研究センター），石田孝司（土木研究所雪崩・地すべり研究センター）

B5-9 1998年1月に中央アルプスで多発した雪崩の特徴

（15分）○原田裕介（寒地土木研究所），若林隆三（アルプス雪崩研究所）

B5-10 南岸低気圧に伴う積雪不安定性－白馬山岳域で観察された特徴的な事例－

（15分）○出川 あずさ（日本雪崩ネットワーク）

（全体討論）

■ 雪氷研究大会（2016・松本）日本雪氷学会雪崩分科会・日本雪工学会 雪崩防災委員会 合同分科会，雪崩分科会総会のご案内

雪氷研究大会（2016・名古屋）において，近年の雪崩災害を振り返り今後の対策の参考にすることを目的に，日本雪氷学会雪崩分科会・日本雪工学会雪崩防災委員会合同分科会を開催いたします．分科会の会員，非会員を問わず，関心のある方の多数のご参加をお待ちしております．

日 時：2016年10月1日（土）12時00分～13時30分

（講演会：12時00分～13時00分，雪崩分科会総会13時00分～13時30分）

場 所：名古屋大学 東山キャンパス B 会場 豊田講堂 3 階 第 1 会議室

・合同分科会

1.話題提供

- ▶ 雪崩ダイナミクス,シミュレーションについて会員から研究活動の報告

2.意見交換

- ▶ 今年度実施したスペシャルセッション SP17:低気圧接近通過時の降雪結晶と雪崩との関連について(雪崩分科会,雪崩防災委員会),SP18:雪崩対策技術における現状と課題(雪崩防災委員会)に関して
- ▶ 次回以降のスペシャルセッションに関して今回実施した内容や話題提供の内容も踏まえ,次回以降のスペシャルセッションについて議論

3.その他

・雪崩分科会総会

議 題：

1. 2015 年度事業報告
2. 2015 年度会計報告
3. 2015 年度監査報告
4. 2016 年度事業計画
5. 2016 年度会計計画
6. 第 27 回雪崩対策基礎技術研修会の開催協力
7. 雪崩分科会会費徴収の廃止に関わる内規の改定提案
8. その他

- 総会終了後の夕刻から懇親会を予定しております。場所は総会時にお知らせします。

雪崩分科会会費徴収の廃止に関わる内規の改定提案
雪崩分科会事務局

2015年の雪氷研究大会（2015・松本）で開催した雪崩分科会総会でも話題にしましたが、公益社団法人移行に伴う日本雪氷学会予算の一本化の方針を受け、これまで雪崩分科会で徴収していた会費（年1,000円）を廃止することについて、雪氷研究大会（2016・名古屋）で開催予定の総会で提案します。

現在は、次年度の活動計画を年度当初に本部に提出し、認められた内容について雪崩分科会独自の予算を用いて活動し、年度末に活動報告と決算報告を行っています。今後は、次年度の活動計画に応じた予算を年度当初に雪氷学会本部に申請し、認められた予算を使って活動することになります。

雪崩分科会は、本部事業の雪崩対策の基礎技術研修会の中心的役割を担うなど、活発な活動を行っているため、活動に応じた予算が認められやすい状況にあると事務局では判断しております。総会に出席できない方も、本提案について事務局へのご意見やご質問を9月末までお待ちしております。

公益社団法人日本雪氷学会雪崩分科会運営内規（変更案）※二重取り消し線部分を削除、太字下線部分を追記

■目的

雪崩分科会は雪崩及び雪崩災害防止に関する研究と技術の発展に寄与することを目的とする。

■業務

- (1) 雪崩に関する研究会および集会の開催
- (2) 雪崩研究に関する重要事項の検討と推進
- (3) 雪崩分科会の運営に必要な年次例会の開催
- (4) その他必要な事項

■組織

(1) 雪崩分科会は(公)社日本雪氷学会定款第~~30~~**34**条および同細目第~~31~~**30**～~~35~~**31**条に定められた分科会の一つであり、上述の目的に賛同して加入を申し出た日本雪氷学会会員により構成される。

(2) 雪崩分科会は役員として会務を総理する分科会長とこれを補佐する若干名の幹事をおく。役員任期は役員選出後の11月1日から2年後の10月31日までを原則とし、再任を妨げない。

(3) 雪崩分科会会長は分科会員の推薦により日本雪氷学会会長がこれを委嘱する。分科会幹事は分科会会長により委嘱される。また、副会長、監事、幹事長、顧問を幹事の中から必要に応じて選出することができる。

(4) 雪崩分科会会長は毎年分科会年次例会を召集しその議長をつとめる。年次例会では出席会員により、会の事業、財務、役員選出、運営内規改廃などの審議を行う。

~~(5) 雪崩分科会は日本雪氷学会理事会の承認をうけた一定額の分科会会費を徴収することができる。~~

■付記

本運営内規は1986年10月20日より施行する。

2017年3月●日に改定（会費の徴収に関わる組織（5）の項目及び付記の該当分を削除、組織（1）の文章を最新の日本雪氷学会定款及び同細目の番号に合わせて変更）

~~分科会会費は年1000円とする。ただし、日本雪氷学会の終身会員および名誉会員の会費は免除する。~~

<今後のスケジュール>

- ・平成28年9月上旬から末日まで：本雪崩分科会レターにて提案をお知らせし、ご意見、ご質問をいただく。
- ・同10月1日：雪崩分科会総会にて審議。
(未払いの方への通知を行い、年度末までに納入していただく)
- ・平成29年3月●日：日本雪氷学会理事会で雪崩分科会内規の改定の承認。

■ 雪崩分科会役員

会 長	上石 勲	国立研究開発法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
副会長	和泉 薫	新潟大学名誉教授
副会長	尾関 俊浩	北海道教育大学札幌校
幹事長	中村 一樹	国立研究開発法人防災科学技術研究所 気象災害軽減イノベーションセンター
監 事	荒川 逸人	国立極地研究所南極観測センター
幹 事 (企画)	山口 悟	国立研究開発法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
幹 事 (会計)	平島 寛行	国立研究開発法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
幹 事 (企画)	飯田 肇	立山カルデラ砂防博物館
幹 事 (企画)	中山 健生	日本勤労者山岳連盟
幹 事 (企画)	町田 誠	町田建設株式会社
幹 事 (企画)	鎌田 慈	公益財団法人鉄道総合技術研究所
幹 事 (企画)	原田 裕介	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所
幹 事 (企画) (ホームページ)	川島 由載	株式会社ドーコン 交通事業本部 防災保全部
幹 事 (研究会) (ホームページ)	町田 敬	町田建設株式会社
幹 事 (研究会)	河島 克久	新潟大学災害・復興科学研究所
幹 事 (編集)	竹内 由香里	国立研究開発法人森林総合研究所十日町試験地
幹 事 (編集) (ホームページ)	小田 憲一	日本大学理工学部
幹 事 (メーリングリスト)	松下 拓樹	土木研究所雪崩・地すべり研究センター
幹 事 (メーリングリスト)	伊藤 陽一	国立研究開発法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
顧 問	遠藤 八十一	国際雪形研究会
顧 問	若林 隆三	アルプス雪崩研究所

雪崩分科会ホームページ <http://www.seppyo.org/sig/nadare>

事務局 : 防災科学技術研究所気象災害軽減イノベーションセンター

中村 一樹 e-mail: kazuki.snow@bosai.go.jp

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1 Tel: 029-863-7291 Fax: 029-863-7299

編集担当 : 日本大学理工学部土木工学科

小田 憲一 e-mail: oda@civil.cst.nihon-u.ac.jp

〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14 Tel: 03-3259-0668 Fax: 03-3259-0668